



第26回日本糖尿病教育・看護学会学術集会 ランチョンセミナー1-1

「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)禍における 糖尿病診療の注意点」

開催日時 : 2021年9月18日(土) 12:00~13:00

開催開場 : 第1会場(川崎市コンベンションホール ホールA)

座長

大阪大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 看護実践開発科学講座

教授

清水 安子 先生

演者

聖路加国際病院 内分泌代謝科

部長

能登 洋 先生

※現地会場でのご参加及びライブ配信のご視聴には、本会のオンライン参加登録が必要です。ライブ配信の視聴については、学会ホームページより参加登録をお済ませいただいた方にログインIDとパスワードが付与されます。

特設ページ(視聴ページ)の開設は今後、学会ホームページよりご案内いたします。

本会ではランチョンセミナーの整理券の配布はございません。

先着順でのご入場となります。

学会ホームページURL : <https://www.c-linkage.co.jp/jaden26/>

本セミナーへご参加いただきましたら、セミナー会場でのアンケート用紙もしくは、Webセミナー視聴ページよりアンケートへのご協力をお願いいたします。

ご回答いただいた内容は、今後の弊社マーケティング施策に活用させていただきます。

アンケートへご協力いただきました方へのお礼として粗品をお渡しいたします。

第26回日本糖尿病教育・看護学会学術集会 ランチョンセミナー1-1 「新型コロナウイルス (COVID-19) 禍における糖尿病診療の注意点」

聖路加国際病院 内分泌代謝科 部長 能登 洋 先生

2020年3月にWHOによりパンデミック状態にあると表明された新型コロナウイルス (COVID-19) は、1年以上経過した2021年5月現在でも猛威を振るい続け、国内外を問わず人々のライフスタイルを激変させました。そして、糖尿病領域においてもその影響は大きく、診療は大きな打撃を受け、通院する患者さんやそれを受け入れる側の医療者にも不安が広がっています。

糖尿病患者さんは様々な要因により感染症が重症化しやすいことが判明しています。実際、2016年の日本糖尿病学会委員会報告によると、感染症は、日本人糖尿病患者さんの死因の中でがんに次いで第2位となっています。また、糖尿病患者さんは感染症に罹患すると、血糖コントロール悪化のリスクも抱えることとなりますので、患者さんには日頃からシックデイ対策の意識を高めてもらう必要があります。

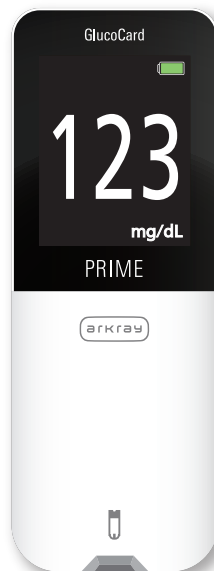
一方で、感染症に罹患していない糖尿病患者さんの血糖コントロール悪化も浮き彫りになっています。各地で実施されている緊急事態宣言やまん延防止等重点措置は感染のリスクは下げるものの、糖尿病患者さんにとっては、感染の不安による受診控えや外出機会の減少による運動不足・体重の増加、不規則な食生活などによる血糖コントロールの悪化に繋がりがやすい環境であることがその理由です。

このように、COVID-19禍における糖尿病診療においては感染予防だけでなく、ライフスタイルの激変による血糖コントロールの悪化予防という視点でも対策をする必要があると考えます。本セミナーではCOVID-19禍の糖尿病診療における考え方や診療に臨む上での注意点について、エビデンスに基づいてすぐに実践できるポイントを説明します。今回お話しするポイントが皆さんの抱えているCOVID-19禍における糖尿病診療に対する疑問や不安の払拭に繋がることを期待しています。

血糖値をよく見よう

自己検査用グルコース測定器

**GlucoCard
PRIME**
グルコカード プライム
GT-7510



薄く・コンパクトなデザイン



見やすい画面表示を追求



音声ガイド機能を標準搭載



療養支援機能を搭載

アークレイ コールセンター

0120-81-1955 6:00~22:00
(年中無休)



LINE 公式アカウント

『検査のアークレイ (医療従事者用)』

医療従事者へ向けて、日常診療に役立つ情報やアークレイでご利用している患者さん向けの資料のご案内、セミナー開催情報などを定期的に配信しています。

